



18 孔雀図 森徹山 二幅対

絹本着色、江戸時代(十八〜十九世紀)
本紙一五八・七×八九・二

森徹山(一七七五〜一八四二)は、大阪の生まれ。猿画で知られる森狙仙の兄・周峰の子で、狙仙の養子となった。初めは父周峰に絵を学んだが、のちに円山応挙の門下となり、応挙の優れた弟子十人の一人に数えられた。応挙に学んだことで、とりわけ動物を良く描いている。

本図は、右幅には美しい尾羽を誇らしげにして、地面を啄ばむ雄の孔雀を、左幅は対照的に、美しさでは雄には劣る雌の孔雀が背を向けながらも凛として虚空を見上げる姿を描く。描写は孔雀以外には足元のわずかな草だけで、孔雀のすつきりとしたポイズ、青色と緑色がほとんどの彩色とも相まって、近代的な印象を受ける。徹山の作品は、主題である動物とともに情趣性を高めるためにその動物を囲む雰囲気描写に意を注いでいると評されるが、本図においては、背景のない点が、むしろこの絵の情趣を強くしている。

応挙以降、円山派で描かれる孔雀の中でも、新しい意識を感じる徹山の優品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

江戸の美意識 — 絵画意匠の伝統と展開

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 28

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十四年三月二十六日発行

©2002. Museum of the Imperial Collections